

事業所名： 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900033		
法人名	社会福祉法人つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん		
所在地	〒021-0852 岩手県一関市三関字小沢47-2		
自己評価作成日	令和7年7月17日	評価結果市町村受理日	令和7年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・笑顔を絶やさず利用者一人ひとりの『思い』を受け止め、利用者・職員・家族が、明るく楽しく安心して暮らせるよう取り組んでいる。
- ・地域に根差した施設として地域住民の方と支え合う関係を目指している。
- ・2ユニットで利用者同士の交流や協力し合う関係を保っている。
- ・日々のレク活動や行事など利用者が楽しめるような工夫をしている。
- ・コミュニケーションを大切に、笑顔を引き出すよう努めている。
- ・利用者一人ひとりのやりたい事や好きな事を実現している。(ふるさとめぐり・自宅見学・園庭散歩)
- ・物価高騰でも旬の食材を取り入れた食事の提供や行事に手作りのケーキなどを用意し、華やかで温かみのあるサービスを工夫しながら提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年8月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニット(平屋)の事業所は、一関駅東口から車で数分の商業施設や医療機関、学校等が多く立地する地域の住宅地の中にある。だんらんユニットに遅れ増設されたみのりユニットは異なる造りであるものの、事業所内の温かみでゆったりとした優しい雰囲気は両ユニットからともに感じるとされる。所長と管理者を中心とした職員間のチームワークや協働の姿勢は、理念を基軸に毎年度職員提案として設定する努力目標と実施細目を実践することにより、日々の利用者支援に活かされている。また、隔月毎に日中・夜間・地震を想定したの訓練を順に実施している。彩りを工夫しながら提供されている食事は3食手作りで、利用者の誕生日には希望の「祝い膳」、お正月には郷土食の餅料理が提供され利用者に喜ばれている。半数の利用者が訪問診療を利用し、年々重度化や看取りの家族の要望が多くなっている。コロナ禍で運営推進会議は長らく書面会議で対応し、地域との繋がりも途切れていたが、今年度から集合形式で再開したことを契機に、地域との連携強化による事業所力の向上が今後一層期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	今年度掲げた『努力目標・実施細目』の項目を毎月1項目ずつ合同ミーティングで話し共有し、業務につなげ意識するようになっている。また、施設内(玄関・事務所・トイレ)に掲示し、『明るく笑顔のたえないホーム』を実践できるようにしている。	開設当初からの事業所理念「明るく笑顔のたえないホーム」は「利用者の思いを受け止め安心して暮らせるホーム」などの、3つの柱に支えられている。理念を実践するため、職員提案で決めた今年の努力目標として「ご家族と共に環境づくり、質の高いケアの提供、地域貢献」の3項目を掲げ、それぞれに複数の実施細目を明示しており、努力目標の1項目ずつを所長が合同ミーティングで取り上げ、職員全員で確認と意識化を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染症対策の為地域の方との交流はできていないが、地域とのつながりを大切にしている。一斉清掃の前日に利用者と職員で近所のゴミ拾いを行ったり、資源ごみのリサイクルを続けている。	コロナ禍の感染予防対策で、ボランティアの受け入れや地域の自治会班長会議等への参加が難しい状況が続いている。また回覧板回しも、以前は近隣住民と挨拶しながら利用者で行っていたが、感染防止対策としてポストインが励行され、隣近所との交流は途切れたままとなっている。地域の一斉清掃は早朝作業のため、前日に各ユニットから2、3名の利用者と職員が協力している。また、ペットボトルや缶を集め回収費用を地域貢献の一助としている。三関地域への年2回広報紙「ほっとスマイル通信」を地元区長を通じ41部を班回覧する取組みは継続している。	コロナ禍で途切れている地域との交流やボランティア協力など、再開に向けた情報収集や働きかけを身近なところから着手して、事業所支援の地域ネットワーク化の構築を図り、事業所力が向上することを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	同地区に毎月発行しているほっとスマイル通信の回覧を年2回行い、近況を伝えている。そこで施設内の活動や状況を把握してもらう機会となっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度から約6年ぶりに対面開催している。感染対策しながら対応している為利用者は参加できていない。まだ開催が数回の為これからたくさん意見を聞き、取り入れていきたい。	運営推進会議の委員は、一関地区広域行政組合の職員、区長・民生委員(2名)、保健推進委員(2名)のほか、利用者や家族も全員を委員とし、徐々に出席者を増やしていく予定にある。議題は主に事業所からの報告だが、今後は、地域の情報や委員との情報交換の場としての活用を視野に入れている。会議はだんらんユニットで開催されている。	対面式の会議再開を契機に、事業所からの報告や協議だけでなく、事業所を支える地域ネットワーク形成の場として、困りごとや企画の相談と、情報収集、情報交換の場としての運営を今後期待します。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	対面で開催している運営推進会議に参加している市の担当者を通じて情報交換している。現利用者で生活保護の方がいないため、以前に比べると密に連絡は取れていない。感染症対策も緩和しているため介護相談員の訪問を求めたい。	市の担当課とは事故報告の連絡等で円滑な連携が図られており、地域包括支援センターとの情報交換も密接である。敷地隣接の市所有地の草刈りも担当課への連絡で直ちに対応してくれている。コロナ禍前に定期的に訪れていた介護相談員がこれからも年1、2回来訪されるよう働きかける予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。「指定地域密着型・・・」を回覧し理解するよう務めた。3か月に1回身体拘束適正化委員会を行い、身体拘束廃止の理解を深めている。ミーティング時にケアマネジメント委員会を行い、担当職員が事故報告書とヒヤリハットを集計し発表後今後の対策方法を報告している。不適切なケアについても勉強会で行っている。	身体拘束適正化委員会は、職員を委員として開催し、研修を含め会議録の確認は全員に回覧して周知している。離床センサーは、だんらんユニットでは2名、みのりユニットでは4名が使用しているが、転倒や骨折等の事故回避や夜勤職員の負担軽減も含め、訪問調査時に介護ロボットの利用について話題となった。玄関の施錠は夜間帯のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に2回、虐待防止委員会を行い担当の職員が資料を作成している。担当職員は外部の研修に参加し学びを深めている。職員も虐待について理解し、絶対にあってはならないこととして周知徹底している。利用者に対しての言葉掛けや支援方法を職員同士注意しあいながら虐待が行われないよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要な時に利用できるよう、施設内勉強会を行い理解するよう努めているが、現在活用している利用者がいないため知識不足であり、更なる知識習得を目指す為資料を回覧したり、勉強会の実施を継続したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	落ち着いた環境で丁寧にわかりやすく説明するよう心掛けている。利用者や家族の不安や疑問を解消したうえで契約できるようにしている。契約後も疑問点があればいつでも対応できる事を伝えている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が面会時や電話の時に話しやすいように対応している。担当職員が家族と連絡するときがあるためその時に個人的な意見や要望を聞き、柔軟に対応している。	家族からは、面会時間の延長や看取り対応の要望が出されている。家族アンケートには職員の対応に対する感謝の言葉が多数寄せられている。入居後経年による高齢化や重度化に伴い、他施設への入居手続を行いながらも、ぎりぎりまで事業所を利用したいとの希望が年々増えている。利用者からは、入浴時や居室、ホールでリラックスしている際の会話から「思い」を把握し、食べたい物を確認して献立に追加するなど、毎日利用者の「思い」を大切に対応している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	アミーバ経営に取り組んでおり職員からの意見や提案を聞く機会があり、できる限り反映させている。その他ミーティングや所長との個人面談などで意見や提案を聞く機会を設けている。	事業所の強みである職員のチームワークと協働姿勢は、会議や事業の合同開催を通じても形成されており、法人全体でのアミーバ経営に加え、職員全員による自己評価表の作成や、理念を実践する上での努力目標の提案、個人目標の設定等を毎年度実践し、事業所力の向上に繋がっている。日常業務での職員間の相談や連絡は円滑に行われ、休暇希望も尊重されている。備品等はその都度本部に連絡し購入している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	今年度は看護・介護休暇の理解を深め、職員各々の家庭環境などを把握しつつも取得できるように務めている。出来る限り希望休を受け入れて、勤務表づくりをしている。また、スキルアップできるよう様々な資格取得を目指している。労働時間の厳守に務め、働き方改革に取り組み、残業する事がないよう、仕事の見直しや工夫をしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内勉強会を毎月行っている。また、施設外の研修会にも積極的に参加している。実践者・管理者・リーダー研修を順次受講できるようにしている。研修に参加する職員に協力できるよう体制を整えている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	アミーバ経営導入後、法人内のグループホームと情報交換の機会が増えている。また、法人全体の会議の場を通して情報の共有をしている。加算に伴い、サービス向上に向けた取り組みをしている。また施設外の研修会を通じて同業者と交流することができている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	自施設の説明を申し込みや実態調査時に行い、不安や要望を聴き、安心して生活できるよう体制を整えている。何度か見学を行ってから入居するなど、安心して過ごしていただけるよう関係づくりに力を入れている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学や申し込み、実態調査時や契約時、不安に思っている事など要望を出来るだけ詳しく聴き、常に耳を傾け意向や思いを受け止め、対応するようにしている。電話でも対応可能であることを伝えている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族・担当ケアマネジャーからの情報を聞き、職員間で情報を共有し「その時」必要な支援を提供している。また、他のサービス利用においても情報提供するなどの対応を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家庭的な雰囲気を大切にし、日常生活を通して個人で出来ること・やりたい事を尊重しながら役割を見つけ、家事手伝いを中心に共に暮らしているのを感じてもらっている。意思疎通が困難な利用者の方にも常に目を配り対応している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話、毎月のほっとスマイル通信で担当職員から近況報告している。通院の付き添いをお願いし、状態を理解していただき、共に支えていけるようにしている。ケアプランに家族の要望を取り入れ実践している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	感染症対策で制限はあるが、親戚・知人・友人の面会時ゆっくりお話ができるよう支援している。電話での対応もしている。ふるさとめぐりを行っている。その際ご近所の方から声掛けしてもらったことがある。	コロナ禍での面会制限が長期間であったため、定期的な面会は受診支援等のご家族やたまに来所する親戚の方が中心となっている。また利用者の半分が訪問診療を利用しており、月1回来所する主治医と新たに対応し始めた理美容業者が馴染みとなっている。「ふるさとめぐり」は、家を観に行きたいと希望する利用者5、6名が参加している。ワゴン車内では、自宅への道順を職員に教えたり、自宅周囲の清掃状況を見て笑顔がこぼれたり、利用者の活き活きとした様子が確認できる貴重な機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの性格を把握し、席の配置を工夫している。関係が円滑になるよう目配りしており、職員が間に入り利用者さん同士関わりあえる環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後も関係性を大切にしながら必要に応じて相談やサービスの情報提供などを行い、退居後の支援に配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向を聞き、その人らしい生活ができるようケアプランにも取り入れ支援している。困難な場合は、家族に聞いたり、これまでの生活歴などから意向を汲み取るよう努めている。	事業所理念を支える3つの項目の第1に掲げる「利用者一人ひとりの『思い』を受け止め安心して暮らせるホーム」を実践し、食べたい物の確認、誕生日の祝い膳の希望、入浴時の順番など、生活の場面場面で意向や思いの確認を大切にしている。また入浴や昼寝、就寝介助時にはマンツーマン介助のため会話が弾み、利用者の本音を聞ける大切な場面となっている。意思表示ができる利用者からは「外出」や「食べたい物」「家を観に行きたい」等の意向が多いとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族・担当ケアマネジャーから情報収集を行い、くらしのシートを頂き、これまでの暮らしを聞き、情報収集したものをファイルにまとめ、全職員で共有し把握できるよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りや業務日誌・連絡ノートやSNS、ホワイトボードを活用し、職員が把握・共有できるようにしている。それぞれのチェック表を活用し、残存機能や健康状態を把握するよう努め一人ひとりに合った生活の支援をしている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月担当職員がモニタリングをしている。定期的には、または状態に応じてカンファレンスを開催しており、本人と家族から希望や思い・願いを聞き、今の生活全般の課題と照らし合わせながらカンファレンスでの意見やアイデアを総合的に判断した上でケアプランに反映させている。本人にとって最も適した支援となるようなケアプラン作成を心掛けている。	介護計画に基づくケア内容は、毎日実施チェックがなされ、担当職員が行う毎月のモニタリングに基づくカンファレンス結果を参考に、介護支援専門員が介護計画の原案を作成している。ご家族からの要望は、来所時や電話で把握し、利用者や家族の意向が作成の都度反映されており、家族アンケートからもサービス担当者会議がしっかり行われていることが窺われた。入居直後の初回暫定計画や状態変化時の計画期間は2ヵ月とし、安定後は6ヵ月毎の見直しとしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアを業務日誌に記録し、職員間で情報共有している。また、ケアプランに基づいたチェック表で実践の状況を確認し、毎月担当職員がモニタリングを記入しプランの見直しが必要か評価している。全職員で閲覧し情報を共有しており介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	感染症対策しながら限定的だが短時間の外出が実施できた。通院の付き添いの支援も継続している。入院時の対応も家族にお願いしているが遠方や仕事の都合で対応できない時は職員が対応している。 季節ごとのドライブやふるさとめぐり、園庭散歩なども支援し臨機応変に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	同地区の子供神輿を室内から見る事ができた。今年度は協力いただき園庭に寄っていただく予定になっている。 家庭菜園や花植えなどを園庭で行っている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、ご家族の希望するかかりつけ医に受診している。家族と受診する時に伝えたいことがあるときはメモ書きし医師に渡してもらっている。本人の状態やご家族の希望に応じて訪問診療に切り替え、必要な時に適切な医療を受けられるよう医療機関との連携を密に図っている。	入居後も元々のかかりつけ医への受診支援を基本としており、受診は原則家族対応としている。状態の低下や家族の高齢化での受診支援が難しくなった場合には、訪問診療への切り替えを行っている。両ユニットで9名が訪問診療を利用しており、月に1回一関中央クリニックの医師が来所している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の勤務であるため、気づいたことや気になることを伝え、適切な対応を指示してもらっている。状態を確認してもらい病院受診の必要があるか見てもらっている。利用者の状態の相談やアドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の施設での生活の様子を、アセスメントを提供したり、サマリーを作成し、情報提供を行っている。入院中ご家族や病院に状態を聞きながら、早期に退院できないか連絡を取り合っている。病院によってはご家族のみに情報提供がされるため、ご家族との連絡は密に行っている。入居している利用者の半分は訪問診療を利用しており病院との関係づくりも出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りの取り組みはないが、馴染みのある施設で最期を迎えさせてあげたいと話す家族が多くなっている。5月に本人と家族の希望で施設で最期を迎えた利用者がいる。出来るだけ希望に沿うように努めている。本人とご家族に、出来る支援(訪問診療や他施設の情報提供)を説明している。終末期の勉強会を行っているが、更なる環境整備と知識の習得が必要である。昨年10月から一関市で運用している緊急時の心肺蘇生中止について希望されている利用者がいるため知識を深めたい。	入居契約時と状態低下時に、ご家族に対し重度化への事業所対応方針を説明している。法人内に3つの特別養護老人ホームがあり、状態の低下に伴い入居手続等の説明も行っているが、「ぎりぎりまで、最期まで事業所のお世話になりたい」とする家族が増えている。週1回看護師が健康状態を確認するほか、看取り指針も作成され、特養で看取り経験のある職員が異動により加わり、訪問診療医との連携による看取り対応への体制が整備されつつある。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDを設置しており、全職員が対応できるように昨年度普通救命講習会を受講している。急変時の対応について施設内勉強会などで学ぶ機会を設けている。4月に施設内の急変利用者にAEDを使用した慌ててしまった事例があり、さらなる勉強会が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	2か月に1回、避難訓練(日中・夜間・地震想定)を実施。外部ベルを設置。年に一回総合訓練を行っており通報訓練と消火訓練も実施。今年度は保健推進委員の2名に参加していただき利用者の見守りを手伝って頂いた。BCP策定委員会を行いハザードマップを綴り対応できるようにしている。通信で地区の住民に非常時の協力を呼びかけている。	夜間想定訓練は秋の夕方5時に職員が利用者役を務め、夜勤1人体制の職員が利用者全員を起こし園庭に避難させる等の実践型訓練を定期的に行っている。今年度の総合訓練では保健推進委員に協力いただいたが、駆付けに時間がかかる課題があったため近隣住民との協力体制の必要性を再認識し、近隣住民への協力要請について検討を予定している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	馴れ合いにならないように気をつけ、一人ひとりの性格を把握し、声掛けや伝え方などを工夫して人格を尊重した声掛けを心掛け人格を傷付けないような言葉掛けや対応をしている。	利用者への声かけは、「さん付」とし、優しい声かけを心がけている。利用者は柔和な笑顔で過ごしている。元音楽の先生に時間にハーモニカを吹いてもらったり、調理員経験者には食事の味見を、華道の師範には生け花など、利用者の経験を活かす働きかけも行っている。排泄や入浴介助でのドアの開放禁止や失禁時の静かにさりげない対応などにも留意している。夏場、利用者は寒がるため、ホールからのエアコンの風を利用するため居室ドアを開放している代わりに、入口に暖簾を掛けるなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入浴の決定や順番・服選び、食事の献立やおやつなど希望を聞いている。また自己決定しやすいように、分かりやすい表現にしたり、選択肢を用意し答えやすいよう工夫している。午後のレクも利用者に聞きながらやりたいことを実施している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしい暮らしができるよう一人ひとりのペースを大切にしており、その日の体調などを配慮しながら、無理強いせず思い思いの時間を過ごせるように配慮している。「天気がいいから外に行きたい」と希望されたので園庭で過ごした。食事作りの手伝い・洗濯物たたみ・歌番組の鑑賞など希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時の衣類の選択をしている。敬老会は口紅や装飾品を身に着けいつもと違うおしゃれをしている。起床時の身だしなみはできないところを手伝っている。5月から訪問介護美容を利用し散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎月同法人の管理栄養士に献立を見てもらいアドバイスをいただいたり分からないことを相談したりしている。毎月行事食を提供しており、誕生者には希望を聞き、お祝い膳を提供している。その日に食べたいものを聞き献立に反映している。日頃から準備・食器拭き等、できる方が行っている。	食事は3食手作りで提供し、「お祝い膳」のリクエストではお寿司が多い。見た目華かな料理やおやつが喜ばれている。七夕時期のおやつに「天の川」を描いたケーキを作ったり、お正月だけは郷土食の餅を提供し喜ばれている。管理栄養士からは、献立の確認だけでなく、季節の食材を活かした簡単レシピや便秘予防などのアドバイスも受けている。利用者は意欲や状態に合わせ、食材準備(ピーラーでの皮むきやもやしのひげ取り)、味見、食後の食器拭きなどを担当している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量を記録し、好みのものを提供し摂取量の確保に努めている。一人ひとりの食べられる量を把握して、バランスよく全量摂取できるよう提供している。状態に応じて水分にトロミをつけたり、刻み食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎月口腔ケア研修会に参加しており歯科医師・歯科衛生士より口腔ケアの方法などを学び、実践している。各々に合った口腔ケアを実践し、物品を活用し、異常時は早期発見できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	24時間の排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。布パンツで対応できる方は布パンツを使用している。自分から訴えがでない利用者さんのサインを見逃さないようにしている。声掛けにも気を配っている。	利用者の失禁を出来るだけ少なく、トイレでの自然排泄が行えるように排泄チェック表を利用し支援している。夜間、ポータブルトイレを利用すれば失禁しないで済む利用者が両ユニットで1名づついる。寝たきり状態の利用者1名以外はオムツを使用せず、状態に合わせた排泄用品を利用している。自宅ではリハビリパンツを使用していたが、入居後の支援により布パンツ利用に改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ヤクルトやヨーグルトを提供している。食物繊維の多い食事や水分摂取の声掛けを積極的に行っている。トイレ使用時腹部マッサージを行ったり、レク活動でラジオ体操を取り入れている。対応が難しい方は無理せず主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴時間は午前に限られているが、本人の希望を聞き、入浴したくないときは無理せず翌日に入浴できるよう支援している。順番の希望を聞いたり、状態に応じシャワー浴も行っている。週2回以上入れるように努力している。	お風呂は1日3人の予定で毎日提供している。季節のゆず湯や菖蒲湯も提供し、職員はマンツーマンで好みの湯温や長湯等に対応している。両ユニットとも一般浴槽であり、失禁時や状態の低下した利用者はシャワー浴で済ませている。入浴は、湯船につかり、ゆっくりと職員と裸のつきあいができる機会、利用者の方から色々な話をしてくれる貴重な機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	毎日昼食後休息する時間を設けている。休息したい時に休めるようまた、部屋で過ごせるよう支援している。音や明るさ、温度湿度に気を配り、気持ちよく眠れるよう支援している。夏季は暖簾を使用し居室の気温の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	かかりつけ薬局と連携を取り、副作用や注意点を確認しながら、服薬介助を行っている。服薬後の状態や経過を観察するよう努めている。個人のファイルに最新の薬の情報をファイルし、いつでも確認できるようにしている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々に応じたレク活動やドライブ・園庭散歩、家庭菜園などを行い、気分転換できるよう支援している。日常生活の中で張り合いを持ち、役割を持つよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	昨年度希望する利用者に対して「ふるさとめぐり」を行った。感染症対策をしながら家族協力のもと自宅に外出した利用者が2名いた。まだまだ感染症対策で制限があるが外出だけでなく居室でゆっくりと面会できるようになることを願う。季節ごとのドライブも行っている。園庭でおやつを提供したり、家庭菜園や花植えを行っている。	利用者の感染対策のため、受診時協力されるご家族との食事や買い物等は未だ制限下にある。お盆の墓参りや正月の帰省の希望は殆どないものの、ふるさとめぐりは利用者の馴染みの場(自宅)への外出として好評である。両ユニットを結ぶ廊下には体重計が置かれ、月1回の計測時には外出しなくても暑さ寒さを感じる場所となっている。季節のドライブは春の花見、秋は紅葉狩りに出かけ、広い園庭でのおやつは利用者に喜ばれている。家庭菜園には今年はミニトマトを植え、水遣りや収穫などを行う利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族に管理していただきお小遣いとして施設で預かっている。現金を手元に持ちたい方は所持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族から電話があれば職員が間に入り、本人に代わりお話ししていただいている。手紙や写真が送られたときは、本人の希望に沿って職員が部屋に飾ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	四季折々の風情を感じる装飾を行い、温度・湿度調節に気を配り、春・秋は気温を配慮し窓を開放している。また、のれんを使用しプライバシーが守られるよう配慮している。冬季はこたつを設置し居心地よく過ごせるよう環境を整えている。ソファを設置しており使用しやすい環境づくりに努めている。	だんらんユニットに遅れて増設されたみのりユニットは異なる設計で建築され、別の事業所かと感じる程であった。不穏や帰宅願望の利用者を連絡廊下から他ユニットに連れ出すと、雰囲気の違いから落ち着き始めることがあるとしている。両ユニットともに利用者の笑顔の写真が居室入口に掲示され、居室間の廊下の壁には、それぞれのユニットで作成した季節を表現した折り紙等の作品が掲示されている。みのりユニットの方がホールは広く、運動会や夏祭り、敬老会などの合同事業に利用されている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	思い思いに過ごせるような環境づくりを行っている。共用スペースにソファも設置しており、自由に過ごせるようにしている。大きな声を出したりする利用者があり、お互いが嫌な思いをしないような席の配置に考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	事前に使い慣れたものを持ち込み使用できることを説明している。落ち着いて生活できるよう家族の写真や気に入っている写真を飾り、自分の部屋であるという安心感を持って居心地よく過ごせるよう環境を整えている。本人の好みのカレンダーを家族から預かり飾っている方もいる。	各ユニットともに、居室にはベッド、エアコン、クローゼットが備えつけられ、入居時に利用者の馴染みの物を持参するよう説明している。時計やカレンダー、家族写真のほか、皇室カレンダーの写真を居室入口の壁一面に飾ったり、洋服ケース、位牌などを持ち込み、100歳祝の賞状などが掲示されている居室もある。クローゼットの収納量が多く、居室もすっきりとしており、みのりユニットではテレビの持込も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内に手すりを設置しており、転倒などのリスクを減らし安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。一人ひとりの残存機能を見極め、出来る事は行っていただくように支援している。居室やトイレの場所がわかりやすいよう表示しており、表札として写真を掲示している。		